# 豊中市都市農業振興基本計画（中間見直し）【概要版】 令和7年（2025年）3月

〇計画期間：令和2年度（2020 年度）から令和 11 年度（2029 年度） ※経済・社会情勢の変化や施策の進捗状況などにより、中間年に見直しを行うもの。

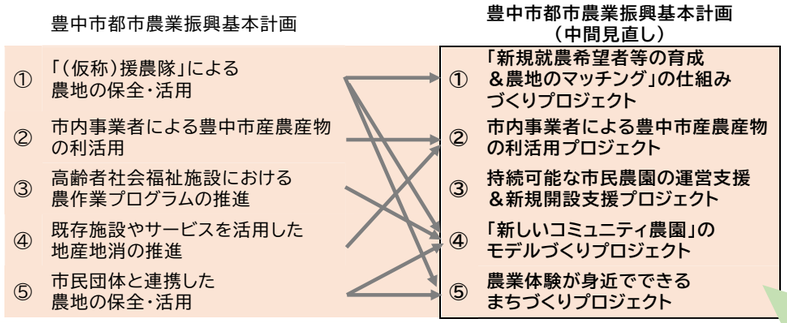
## 1. 中間見直しにおける主な変更点

豊中市都市農業振興基本計画（中間見直し）では、豊中市都市農業振興基本計画（令和2年（2020年）3月）策定後の経済・社会情勢の変化や施策の進捗状況などを踏まえて見直しを行いました。

本市の農地は、相続時をはじめ、担い手の高齢化・後継者の不足等を理由に今後も減少していくことが推察されます（減少傾向は避けられない一面があります）。そのため、現計画で示した豊中農業の課題は一定継続しており、将来像や基本的方向についても現計画を踏襲しながら、都市農業の多様な機能を果たす取組にアプローチ（チャレンジ）していくことが重要です。

現計画においても「チャレンジプロジェクト」として位置付けて取り組んできましたが、中間見直しにおいては、既存の担い手である農業者への支援を基本に、農業者以外の新たな担い手の確保・育成を強化し、農に関わる（あるいは関わりたい）市民や団体・事業者等のニーズに対応し、豊中農業の推進により参画できるよう、多様な主体によるコミュニティづくりや連携体制の構築に重点を置いたプロジェクトに変更しています。

チャレンジプロジェクトの変更点




## 2. 豊中農業の現状と課題

### 1 豊中農業の現状（まとめ）

（1）農家戸数と農業就業人口（令和2年）

〇農家戸数は238戸。過去25年間で5割近く減少。　〇販売農家は67戸（全体の28%）。全体の約7割が自給的農家。

〇農業就業者は199人。過去25年間で8割以上減少。このうち、基幹的農業従事者は59人で、そのうち約70%が65歳以上。

（2）農業生産物と出荷先

〇令和2年に農産物を販売した農家44戸の販売第1位の農産物は、「水稲」が26戸（59%）と最も多く、次いで「露地野菜」7戸（16%）、「花き・花木」4戸（9%）など。出荷先は、「農協」（22件）が最も多く、次いで「消費者に直接販売」（9件）、「小売業者」（6件）など。

（3）農地の状況

〇市内農地面積は55.2ha（令和4年度）。平成8年度から令和4年度までの間に約59%減少。そのうち、生産緑地地区に指定されている農地は37.4ha（同期間で約44%減少）。

※（1）～（2）の出典は農林業センサス、（3）は豊中市農地台帳。ただし、農林業センサスは、「農家」を経営耕地面積が10a以上又は農産物販売金額が15万円以上の世帯と定義。経営耕地面積要件のない豊中市農地台帳では、上記（1）数値のうち農家戸数は令和2年で483戸。

### 2 豊中農業の課題

●課題1：営農継続に向けた支援と多様な担い手の確保
●課題2：豊中農業の強みを生かした農業経営の安定
●課題3：農地の積極的な保全・活用
●課題4：農業者と事業者・市民との情報共有（ミスマッチの解消）
●課題5：市民に対する豊中農業への一層の理解（認知）
●課題6：地域コミュニティと連動した農地の活用
●課題7：関係者間の連携体制やコーディネート機能の強化

## 3. 豊中農業の将来像と基本的方向

### 1 豊中農業の将来像

**「次代につなぎ、暮らしに寄りそう“豊中農業”」**

### 2 豊中農業の基本的方向

将来像を踏まえ、豊中農業が安定した経営を営み、また、市民等から十分に理解され、応援される農業を実現するための基本的方向を以下の4つとします。

**（1）生産者が農業をつづけられる環境づくり**
※豊中農業の課題①・②・④に対応

**（2）多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・活用**
※同③・⑥

**（3）豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現**
※同①・④・⑤・⑥

**（4）農地の積極的保全・活用に向けた体制づくり**
※同⑦

## 4. 施策体系

基本的方向に沿って具体的に実施する施策一覧を以下に示します。また、5つのチャレンジプロジェクトを展開します（次ページ参照）。

| 基本的方向1：生産者が農業を続けられる環境づくり | | |
|---|---|---|
| 1－1 営農継続に向けた支援と多様な担い手の確保 | （1）農地保全に向けた農地所有者への情報提供 | |
| | （2）農地利用の最適化推進 | チャレンジ① |
| | （3）栽培技術の向上、環境負荷低減に向けた栽培等の取組支援 | |
| | （4）週末農業・農業ボランティアなど、農地所有者以外による農地の保全・活用 | チャレンジ①<br>チャレンジ② |
| 1－2 豊中農業の強みを生かした農業経営の安定 | （1）市内事業者による豊中市産農産物の利活用 | チャレンジ② |
| | （2）農業経営者協議会研究部会等との連携の推進 | |
| | （3）農機具等の導入支援 | |
| | （4）農業共済の加入支援 | |
| | （5）転作作物に対する支援 | |
| **基本的方向2：多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・活用** | | |
| 2－1 多面的機能を発揮した取組の推進 | （1）社会福祉施設・市民団体等における農作業プログラムの推進 | |
| | （2）農地の有効活用・景観形成及び市民が自然とふれあう機会等の多面的機能の維持・向上 | |
| | （3）災害時の防災機能の向上 | |
| 2－2 生産緑地の積極的な保全・活用 | （1）農地パトロール事業による農地保全の推進 | |
| | （2）生産緑地・特定生産緑地の制度周知と指定 | |
| | （3）都市農地の貸借円滑化 | チャレンジ① |
| **基本的方向3：豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現** | | |
| 3－1 市民に対する豊中農業への一層の理解（認知） | （1）豊中農業・農地に関する市民への啓発 | |
| | （2）豊中市産農産物の購入機会の拡大 | |
| | （3）学校給食での豊中市産農産物の利用促進 | |
| | （4）新鮮で安全な農産物の提供と地産地消の推進 | |
| | （5）農業祭の開催 | |
| | （6）とよっぴー（堆肥）・大阪エコ農産物を活用した取組の推進 | |
| 3－2 地域コミュニティと連動した農地の活用 | （1）市民農園の整備及び開設支援 | チャレンジ③ |
| | （2）市民団体等と連携したコミュニティ農園の創出 | チャレンジ④ |
| | （3）田植え・稲刈り、さつまいも栽培等の農業体験の推進 | チャレンジ⑤ |

＊「基本的方向4　農地の積極的保全・活用に向けた体制づくり」は、各施策を推進する体制づくりとして、計画内では、「計画の推進」に記載しています。

## チャレンジプロジェクト

「4　施策体系」のうち、本計画に基づく取組を先導するものとして、5つのプロジェクトを立ち上げ、チャレンジプロジェクトとして展開します。特に、本市の特徴を生かし、これまでの枠組みに捉われず、多様な担い手や取組による農地の保全・活用を図ります。なお、チャレンジプロジェクトの推進にあたっては、農業者をはじめとする関係者の意向を把握するとともに、各プロジェクトを連動させながら、試行実施→事業の創出をめざします。

### チャレンジ①　「新規就農希望者等の育成＆農地のマッチング」の仕組みづくりプロジェクト

**■目的**
- ・新規就農希望者を確保・育成するためのステップ作り
- ・農地貸借や活用に向けた情報提供
- ・市窓口による農地の円滑な貸借

**■取組展開**
- ①新規就農希望者等のニーズ把握
- ②現在の体験農園事業をベースとした新規就農希望者等の育成に向けた仕組みづくり
- ③さまざまな機会における市内農業者に対する都市農地制度の情報提供
- ④農地貸借に関する情報の一元的な把握、マッチングさせる仕組みの検討

### チャレンジ②　市内事業者による豊中市産農産物の利活用プロジェクト

**■目的**
- ・自給的農家の所得向上（販売農家への移行）
- ・農地の保全・活用
- ・市内事業者による豊中市産農産物の利活用

**■取組展開**
- ①農業者と事業者のニーズ把握
  （例：品目、流通・販売方法等の検討）
- ②事業者との意見交換・マッチング
- ③モデル事業の実施
  （例：試験的な栽培・流通・販売、支援施策の検討　等）
- ④事業の実装化

### チャレンジ③　持続可能な市民農園の運営支援＆新規開設支援プロジェクト

**■目的**
- ・持続可能な市民農園運営の仕組みづくりと継続率の向上
- ・都市農地の保全・活用の推進
- ・農を楽しむ市民の増加（利用ニーズへの対応）

**■取組展開**
- ①「市民農園オーナー会議」開催による、課題把握と継続意向調査の実施
- ②現在の仕組みの見直し検討
- ③市民農園を継続的に運営していくための運営費の一部を支援
- ④利用者に向けたマナー向上のための周知促進
- ⑤新規に市民農園開設を考える農業者に向けた運営ノウハウを提供
- ⑥市民農園の新規開設にかかる費用の一部支援

### チャレンジ④　「新しいコミュニティ農園」のモデルづくりプロジェクト

**■目的**
- ・市民活動団体等と連携した農地の保全・活用
- ・都市農地の新たな活用方法の創出
- ・「とよっぴー」を核とした市民への豊中農業の理解醸成

**■取組展開**
- ①農や食をテーマに活動する市民活動団体等のニーズ把握
- ②市民活動団体等を核とした新しいコミュニティ農園の検討
- ③新しいコミュニティ農園のモデル実施

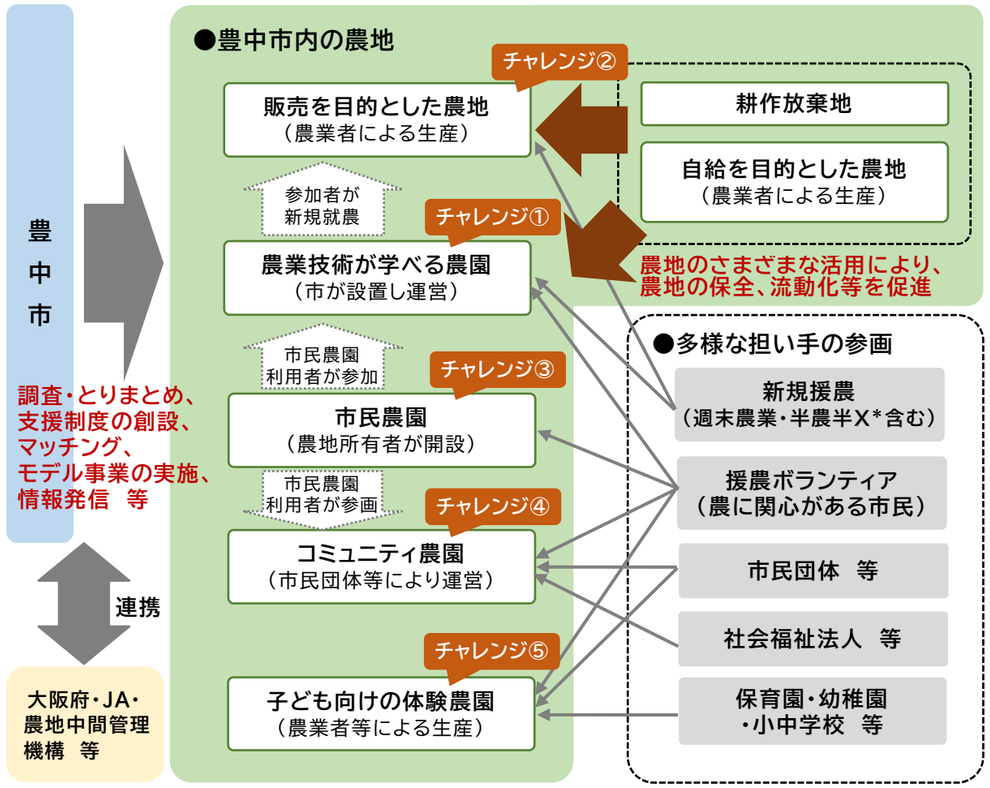
### チャレンジ⑤　農業体験が身近でできるまちづくりプロジェクト

**■目的**
- ・農業体験（収穫体験）による農地の保全・活用
- ・各学校における食に関する取組の推進
- ・地域住民の農業への理解の醸成と農業者が農業を継続しやすい環境づくり
- ・市内農産物の販売機会の拡大と地産地消の推進

**■取組展開**

**※生産品目は、「さつまいも」を核として推進を図る**
- ①さつまいも堀り体験に関する負担、収穫体験時のポイント等に関する情報発信
  （例：農業者と学校側の役割分担、準備物、安全管理等の整理・見える化、情報交換会の開催）
- ②新たに農業体験（収穫体験）に取り組む農業者に対する支援
  （例：農業者が新たにさつまいも堀りに取り組む場合に、苗代の一部を支援）
- ③市内で農業体験（収穫体験）に取り組む農業者に関する積極的な情報発信
- ④さつまいも堀りを実施したい保育園・幼稚園、小学校等と農業者、あるいはサポーターとのマッチング

豊中農業の推進とチャレンジプロジェクトの関係




## 5. 数値目標

| | | | 現状値（令和6年度） | 目標値（令和11年度） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | チャレンジプロジェクト① | 農地貸借のマッチング | 7件 | 10件 |
| | | 農業ボランティアへの参加 | 0人 | 10人 |
| | | 週末農家、新規就農者 | ― | 5人 |
| 2 | チャレンジプロジェクト② | 豊中市産農産物を利活用した事業者 | 3事業者 | 8事業者 |
| 3 | チャレンジプロジェクト③ | 市民農園利用の満足度 | 69% | 75% |
| | | 市民農園の開設場所 | 19か所 | 23か所 |
| 4 | チャレンジプロジェクト④ | コミュニティ農園開設か所 | ― | 3か所 |
| 5 | チャレンジプロジェクト⑤ | 農業体験（収穫体験）の実施 | 1か所 | 3か所 |
| 6 | その他 | 生産緑地面積 | 37ha | 37ha |

## 6. 計画の推進

### 1　計画の推進体制

○計画の推進にあたっては、『豊中市都市農業振興基本計画審議会』において現状値や数値目標の達成状況を把握・評価し、PDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）のもとに進めます。

○本計画のチャレンジプロジェクトを推進にあたっては、そのプロジェクトに関わる行政はもちろん、農業者や市民（市民団体）、関係者でチームとなって協議（プロジェクトチームミーティング）を行い、審議会等での意見聴取を踏まえながら取組を進めます。

### 2　計画の進行管理

○1. で示した審議会による進行管理のもと、各施策の進捗状況だけでなく、社会経済情勢の変化、国・府の政策動向などの対応とともに検証して行います。